

第14回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

平成23年11月11日に独立行政法人農畜産業振興機構（東京都港区）において、第14回野菜需給協議会が開催されました。その概要は下記のとおりです。

記

- 1 23年産夏秋野菜の需給・価格の状況について
 - ・事務局より、23年産夏秋野菜の需給・価格の実績とその要因について報告した。
- 2 23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて
 - ・(株)応用気象エンジニアリングより、今年の秋から冬にかけての気象について、11月・12月は気温が高めで推移するが、1月は低温傾向となる見込みであるとの説明があった。
 - ・平成23年11月4日に開催した野菜需給・価格情報委員会においてとりまとめられた23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しを同委員会座長より報告した。（品目別の見通しは別紙参照）
- 3 野菜の消費拡大に向けた取組みについて
 - ・協議会会員より、東日本大震災による被災産地の復興支援を含めた野菜の消費拡大の取組みについて説明があった。
- 4 放射性物質と食品の安全性について
 - ・内閣府食品安全委員会事務局の新本リスクコミュニケーション官より、放射性物質と食品の安全性について、リスク評価結果を中心に説明があった。
- 5 野菜需給協議会会員から出された主なご意見
 - ・食育は若いうちに行うことが重要。また、食育により若いうちに料理のスキルアップができれば、高齢になってからの健康維持にも役立つ。
 - ・野菜のバラ売りやカット売りが増えることにより販売量が減ることが心配。
 - ・放射性物質に関する情報提供を若い主婦などに行っていくことが必要。
 - ・健康に対する喫煙や飲酒のリスクと野菜摂取不足のリスクの比較ができれば、野菜の消費拡大に役立つのではないか。
 - ・食品からの被爆について、1か月や1週間の献立に即した数値がわかれば役立つと思う。
（参考）配布資料等については、ホームページで公表いたします。

(別紙)	23年産秋冬野菜の需給・価格の見通し	
	出荷量見通し	需要・価格見通し
冬キャベツ	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、主産地である愛知県及び神奈川県が前年をやや上回り、千葉県が前年並みで、全体としては前年をやや上回る見込み。 ・生育状況は、一部の県で台風等の影響を受けたものの、全体としては概ね順調。 ・出荷量は、作付面積がやや増加し、生育も概ね順調なことから、少なかった前年をかなり大きく上回り、平年を上回る見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回る見込み。なお、年内の生育が前進した場合は、年明け以降、価格が前年を上回る可能性がある。
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、主産地である北海道の一部地域で雹害による廃耕があったことから前年をやや下回る見込み。 ・生育状況は、産地や作型毎によってばらつきはあるものの、全体としては前年よりは順調。 ・出荷量は、作付面積がやや減少したものの、生育が不作だった前年より順調なことから、少なかった前年をやや上回るものの、平年との比較では大幅に下回る見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回るものの、平年比では上回る見込み。
秋冬だいこん	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、主産地である神奈川がやや増加、千葉及び徳島が前年並みであったものの、その他の産地が減少し、全体では前年をわずかに下回る見込み。 ・生育状況は、台風被害の影響も少なく、概ね順調。 ・出荷量は、作付面積がわずかに減少したものの、生育が概ね順調なことから、前年、平年ともに上回る見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回る見込み。なお、年内の生育が前進した場合は、年明け以降、価格が前年を上回る可能性もある。
冬にんじん	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、主産地である千葉及び長崎で前年をわずかに上回るものの、愛知で前年をかなり下回り、全体では前年並みとなる見込み。 ・生育状況は、台風等の天候不良により若干の遅れが見られるものの概ね順調。 ・出荷量は、作付面積が前年並みで、生育も主力の千葉産が順調なことから、前年、平年ともに上回る見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量が不作の前年を大幅に上回ることから、価格は、高かった前年を大きく下回り、平年並みとなる見込み。なお、加工・業務用野菜の国産回帰の動きもみられる。
秋冬はくさい	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、愛知が前年を下回るものの、茨城及び兵庫が前年並みとなり、全体では前年並みとなる見込み。 ・生育状況は、台風の影響等により、葉の損傷や播種・定植の遅れが見られるものの、10月の好天により回復する見込み。 ・出荷量は、作付面積が前年並みで、台風の影響等により葉の損傷や播種・定植の遅れが見られるものの、10月の好天により生育が回復傾向にあり、前年、平年ともに上回る見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量が前年を上回ることから、価格は、今後の天候にもよるが、前年をやや下回る見込み。特に、気温が高めに推移すれば、需要の減少と出荷量の増加から、価格はさらに下落する可能性がある。
冬レタス	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、香川が前年並みであるが、茨城、静岡、兵庫等が前年を下回り、全体では前年をわずかに下回る見込み。 ・生育状況は、兵庫、香川で台風の影響による生育に遅れが見られるものの、全体としては大きな影響はない模様。 ・出荷量は、作付面積がわずかに前年を下回り、台風の影響により、一部産地で生育遅れが見られるものの、全体としては前年をやや上回り、平年をわずかに上回る見込み。ただし、1～2月には平年を下回ることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量が前年をやや上回るものの、価格は、前年並みとなる見込み。ただし、1月から2月にかけては出荷量が減少し、価格が平年を上回る可能性がある。

<p>その他秋冬野菜全体の消費の動向など</p>
<p>【景気、天候などの要因による消費動向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気が低迷しており、消費は減退傾向にある。 ・今年の秋は例年より気温が高いため、きのこやはくさい等鍋食材の需要が弱く、逆にレタス、きゅうり、トマト等サラダ食材の需要が依然として順調である。
<p>【震災、原発事故の影響による消費動向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原発事故に伴う消費減退は、徐々に薄れてきている。 ・ただし、きのこ等の新たな放射性物質の検出や、ホットスポットの報道がされると、関係する県の幅広い品目も敬遠される場合がある。特に、食の安全性への関心が高い学校給食や子供を持つ主婦から敬遠されることがある。
<p>【野菜全体の販売状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者が購入しやすい価格帯や量目を工夫し、いままで1個売りしていたものを1/2、1/4等カット売りをしたり、複数個の袋売りのものをバラ売りにしたり、大玉だけの品揃えから小玉等複数の規格をそろえるようにしている。なお、カット売りの増加が販売量の減少につながっている。 ・直売所においては、野菜を加工して中食として提供する取組が盛んになってきている。 ・消費者の多様な選択に対応するため、同一の品目について複数産地のものを併売している。また、選択できる利便性から、インターネットを利用した通信販売が活発になっている。
<p>【秋冬野菜の消費動向等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般家庭においては、キャベツ、はくさい、たまねぎ等で柔らかい品種のものが好まれる傾向となっている。一方、業務用のキャベツにおいては、寒玉系のように堅く巻きのしまった歩留りの良いものが好まれる。 ・冬場の野菜消費には、蒸し鍋による需要拡大が期待できる。
<p>【野菜の輸入動向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①中国産野菜へのアレルギーの減少、②国産野菜の価格高騰の頻度が高くなっていることのリスクヘッジとして、一定量を輸入により確保しようとする動き、③アジアに進出した外食産業等におけるアジア全域での原料調達動き、④円高やデフレの進展等から、輸入量は増加傾向にある。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学時や新社会人になる際の一人暮らし等、自炊を始めるタイミングに合わせて食育を行うことが重要である。